



矢野 邦夫 先生
浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床・エイズトレーニングセンター臨床研修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索

株式会社メディコン

COVID-19ワクチンについてのQ&A（接種対象者）

現在、COVID-19ワクチンは医療従事者に接種されているが、今後は高齢者や基礎疾患のある人々に接種されてゆく。そのとき、様々な疑問が浮かび上がってくるであろう。CDCがCOVID-19ワクチン（mRNAワクチン）についてのQ&Aを提示しているので、「接種対象者と接種方法」の部分を抜粋して紹介する（1）。

■ギランバレー症候群の病歴がある患者に接種できるか？

接種できる。ギランバレー症候群の病歴のある人は、ワクチン接種の禁忌がない限り、COVID-19ワクチンを接種することができる。予防接種の実施に関する諮問委員会（ACIP：Advisory Committee on Immunization Practices）の予防接種ガイドラインには、ワクチン接種の禁忌としてギランバレー症候群の病歴は含まれていない。

■ベル麻痺の病歴のある患者に接種できるか？

接種できる。ベル麻痺の病歴のある人は、ワクチン接種の禁忌がない限り、COVID-19ワクチンを接種することができる。ベル麻痺の症例は、Pfizer-BioNTech社およびModerna社の両方のCOVID-19ワクチンの臨床試験において、ワクチン接種後に報告されている。しかし、米国食品医薬品局（FDA：Food and Drug Administration）は、これらが一般集団で予想される頻度を超えているとは考えておらず、これらの症例がワクチン接種に因果関係があると結論付けていない。因果関係をさらに評価するには、認可後の安全監視が重要になる。そのようなエビデンスがなければ、ベル麻痺の病歴のある人は、ワクチン接種の禁忌がない限り、COVID-19ワクチンを接種することができる。

■妊婦に接種してもよいか？

接種してもよい。妊婦がCOVID-19ワクチンの接種を推奨されている集団（医療従事者など）に含まれているならば、ワクチン接種を選択できる。現在、妊娠中または授乳中の人々におけるCOVID-19ワクチンの安全性に関するデータは殆どない。そのため、接種を判断するときには下記について考慮すべきである。

- COVID-19の市中での流行状態
- COVID-19に罹患する個人的なリスク
- COVID-19の重症化リスクと胎児への潜在的なリスク
- ワクチンの有効性
- ワクチンの副反応
- 妊娠中のワクチンに関するデータの欠如

■授乳中の女性に接種してもよいか？

接種してもよい。乳中の人々がCOVID-19ワクチンの接種を推奨されている集団（医療従事者など）に含まれているならば、ワクチン接種を選択できる。授乳中の人におけるCOVID-19ワクチンの安全性や授乳中の乳児または乳汁産生/分泌に対するCOVID-19ワクチンの影響についてのデータはない。mRNAワクチンは授乳中の乳児にとってリスクであるとは考えられていない。

■COVID-19の病歴のある人にCOVID-19ワクチンを接種できるか？

接種できる。ワクチン接種は、過去に症候性または無症候性のSARS-CoV-2感染の病歴があるかどうかに関係なく、接種適格者に提供されるべきである。臨床試験のデータは、過去にSARS-CoV-2に感染したエビデンスがある人であっても、COVID-19ワクチンを安全に接種できることを示している。現在SARS-CoV-2に感染している人への接種は、急性疾患から回復するまで（症状があった場合）、もしくは、隔離終了の基準が満たされるまで延期する必要がある。この推奨は、COVID-19ワクチンの1回目と2回目の接種を含むすべてのワクチンに適用される。過去90日以内に感染した場合は、90日が経過するまでワクチン接種を延期してもよい。

■COVID-19ワクチンはCOVID-19治療として、モノクローナル抗体または回復期血漿を受けた患者に接種してもよいか？

接種してもよい。ただし、過去90日以内にモノクローナル抗体または回復期血漿で治療した場合はワクチン接種を延期する必要がある。「COVID-19治療としてのモノクローナル抗体または回復期血漿の半減期」および「最初の感染後90日間は再感染が稀であることを示唆するエビデンス」に基づいて、ワクチン接種を90日間遅らせることは、追加情報が得られるまでの予防措置である。それは、抗体治療がワクチンによる免疫応答に干渉するのを避けるためである。

■「免疫抑制剤による治療中の患者」や「化学療法を実施した癌の病歴のある患者」に接種してもよいか？

免疫不全の人は、ワクチン接種の禁忌がない限り、COVID-19ワクチンを接種してもよい。ただし、下記について考慮すべきである。

- 免疫不全の人におけるワクチンの安全性と有効性は未知である。
- 免疫応答が低下する可能性がある。

化学療法または他の免疫抑制薬による治療中にCOVID-19ワクチンを接種し、その後に免疫能力を回復した人には、現時点では再ワクチン接種は推奨されない。追加情報が入手されれば、再接種または追加投与に関する推奨事項が更新される場合がある。

■1回目の接種後に発熱と接種部位の腫脹があった患者に2回目を接種してもよいか？

ワクチン接種の一般的な副作用には、注射部位の疼痛や腫脹、発熱、悪寒、倦怠感、頭痛などがある。殆どの人では、副反応は1～2日以内で収まる。そして、副反応は2回目の接種に対する禁忌とはならない。しかし、COVID-19ワクチンの1回目の接種で即時型アレルギー反応を示した人に、2回目を接種をしてはならない。

ワクチンまたは薬物療法に対する即時型アレルギー反応は、投与後4時間以内に発生した蕁麻疹、血管浮腫、呼吸困難（喘鳴、喘鳴など）などの過敏症状、もしくはアナフィラキシーとして定義される。医師は、ワクチン接種後に報告された反応が、血管迷走神経反応やワクチン接種後の副反応（2回目の接種を受けることの禁忌ではない）などのワクチン接種後に一般的に観察される反応と比較して、即時型アレルギー反応であるかどうかを判断する必要がある。

[文献]

- (1) CDC. COVID-19 vaccine FAQs for healthcare professionals
<https://www.cdc.gov/vaccines/covid-19/hcp/faq.html>

こちらも公開しています。

メディコン CDCガイドライン 

製造販売業者

株式会社メディコン

本社 大阪市中央区平野町2丁目5-8 ☎0120-036-541

crbard.jp

